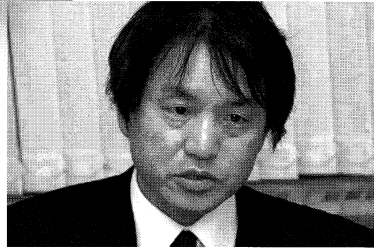


# 今回の入試改革は日本の教育の質的転換を図る インセンティブを与えるもの

海城高等学校・海城中学校 教頭

国際バカロレア・日本アドバイザリー委員会委員 中田 大成



**今回の第四次提言**  
についてご意見をお聞  
かせください。

時代の急激な変化に伴い、子どもたちには学力面で従来の「記憶・知識獲得型」に加えて「問題設定・解決型」の能力も求められるようになってきました。これまでの入試ではそうした能力はほ

んど測られることがあり  
ませんでした。教育の質的  
転換を促す上で、どうしても  
そうした評価の導入は避け  
られず、今回の入試改革に  
至ったのだと考えます。

私としては今回の改革  
が、初等中等教育とそれに  
続く高等教育の中身の改革  
に連なるビッグピクチャー  
に基づくものであることを  
願っています。グラントデザ  
インなくしては、この改革は  
成功しないでしょう。それか  
ら私たちが間違っていないけ  
ないのは、今回の入試改革  
が人物評価のみに重きを置  
いているわけではないとい  
うことです。「人物本位」と  
いう表現は多くの人の誤解  
を招きやすいですが、今後も

「知識」が基礎として重要  
であることに変わりはない  
はずです。

**新しい学力や人物  
の公平な評価は可能だ  
と思われませんか。**

はじめから「できない」、  
「不公平」と言ってしまう  
のは、充分なリサーチが足  
りていないからだと思いま  
す。私は国際バカロレア(以  
下IB)・日本アドバイザ  
リー委員会委員を務めてい  
ますが、IBでは前述の新  
しい学力や人間性の一部を  
きちんと評価する仕組みを  
持っています。細かい評価基  
準がIBにはあって、それを  
生徒、教師、試験官が共通の  
認識として持っているので

す。日本の大学入試でおこ  
なわれている小論文のよう  
に、何を評価しているかが今  
一つ不透明なものではない。  
IBを例にとりましたが、一  
見定量化しにくく思われる  
対象の評価を欧米ではテク  
ニカルなこととして可能に  
しているわけで、日本におい  
てもそうした評価手法を作  
り上げ、普及させることが  
必要だと思えます。

**この入試改革で何  
を望まれますか。**

今回の入試改革は、日本  
の教育の質的転換を図るイ  
ンセンティブを与えるもの  
であって、決して最終の目  
的ではないと理解していま  
す。つまりこの改革をテコ

にして、新たな人材育成に  
取り組むことが不可欠なわ  
けです。それができないと、  
今後の日本の発展は望めな  
いでしょう。また、グローバ  
ル戦士となってお金を稼ぐ  
ことも必要かもしれませんが、  
それよりもあらゆる課  
題を地球規模、社会全体の  
ものとして捉えることで  
きる真の意味でのグローバ  
ル人材を育てることが必須  
だと考えます。国内に在っ  
ても政府にばかり依存するの  
ではなく、パブリックマイン  
ドを持つてより望ましいコ  
ミュニティを自分たちで作  
り上げていく人材。入試改  
革を通じて、そうした人材  
育成の改革がおこなわれる  
ことを求めます。



特集

# 達成度テスト どうする?!

教育再生実行会議(座長:鎌田薫早稲田大総長)が安倍晋三首相に(第四次提言)「高等学校教育と大学教育との接続大学入学者選抜のありかたについて」を提出した。これを受け中央教育審議会は具体的な制度設計の議論を始めた。教育再生実行会議の提言「大学入試制度改革案」の概要は、以下の通り。

- ① 5、6年後をめどに大学入試センター試験をベースにした「発展」テスト、高校在学中に基礎学習の到達度をみる「基礎」テストを創設。合わせて「達成度テスト」(仮称)として運用
- ② 発展テストの成績は、得点でなく、上位から下位まで何段階かに分けたランクで表示。複数回実施も検討
- ③ 各大学は、求める学力を受験生が満たしているか、発展テストの成績ランクで把握。大学入学の「基礎資格試験」の性格をもたせる
- ④ 各大学は、面接、論文、高校時代の活動内容(部活動やボランティアなど)と合わせた「丁寧な入試」で入学者を選抜。独自の学力試験を実施する場合も、知識偏重にならないよう改善
- ⑤ 基礎テストは高校の卒業資格にはしないが、AO・推薦入試で大学が出願者の学力を把握する資料に活用。複数回受けられるようにする

この第四次提言に、教育界、マスコミを騒然とさせた。そこで本誌も独自に緊急取材を試みた。

教育再生実行会議のメンバーでもある文部科学大臣の下村博文氏、塾を代表して株式会社ナガセの永瀬昭幸社長、予備校界から駿台予備学校・情報センター長の石原賢一氏と学校法人河合塾・教育研究開発本部 本部長の前田康宏氏、そして私立学校からは開成中学校・高等学校 校長の柳沢幸雄氏、海城中学校・高等学校 教頭の中田大成氏、中教審のメンバーであり、日本私立中学高等学校連合会(中高連)会長の吉田晋氏の御三方が緊急インタビューに応じてくださった。